

講 演 録

「クルーズの魅力」

郵船クルーズ専務

幡野 保裕

(於. 神戸商工会議所神商ホール)

平成 20 年 10 月 3 日 (金)

【幡野】 皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました郵船クルーズの幡野でございます。1995年から2003年まで先代の「飛鳥」に乗船しておりました。船長として足かけ8年クルーズ船に乗っておりましたので、この機会にクルーズのPRをしっかりとさせていただきたいなあというふうに思っております。まずはこのような機会を与えていただきました JAPAN NOW 観光情報協会の方々、また日本海事センターの方々に、大変お礼を申し上げたいというふうに思っております。

船長をしておりますと、お客さまの前でしゃべることがよくありまして、そのときのクルーズの良さだとか、寄港地の特徴だとか、いろいろなお話をさせていただくんですけれども、私の話は大変評判がよくて、今日は40分ぐらいしかお時間がないので皆さまには申し訳ないなと思っておりますし、また大変貴重な講演を2つお聞きになった後ですので、お疲れのところ大変かなというふうに思います。でも、どうして評判がよかったかというと、どうももたもたしゃべりますので、よく寝られるということらしいんですね。船を動かすのも得意でございましたけれど、皆さんに舟を漕いでいただくのも得意ということで、40分ゆっくりお休みください。最後の講演です。

まずはクルーズのPRをさせていただいて、PRをさせていただいただけでは申し訳ないので、港に客船を呼ぶにはどうしたらいいのかなという話を最後に少しさせていただければいいかなというふうに思っています。パワーポイントを使いながら話をさせていただきたいと思いますが、今、日本のクルーズ客船、実は4隻外航客船がございまして、その船はどのようなスケジュールで動いているのかなんていう話をちょっとご紹介をしたいなというふうに思っています。クルーズの客船に乗りたいたいんだけど、どこに行ったら一体乗船券が買えるのかな、なんていう話になっているのではないかなと思っておりますし、今では客船「飛鳥」が

どこにいるのかな、なんて言ってもどなたも皆さんご存じない。
まあまだ日本はそういう状況かなというふうに思います。

まずクルーズの一年間（スライド2）を見てみますと、クルーズ客船で世界中を動いているのは日本の船は4隻ですけど、大体こういうふうなスケジュールで、4月の初めからワールドクルーズに出て、7月に日本に帰ってまいります。それから7月は日本の夏祭り、「ねぶた」だとか「阿波踊り」だとか、「竿灯」だとか、そういう祭りを敢えて日本の近海を走っています。8月の終わりからこの時期は、チャータークルーズと言いまして、企業にチャーターされた格好で、船は動いているんですね。今はちょうど日本海側のいろんな企業にチャーターされまして、日本海側からの港を走っています。

その後、10月には大体秋を追いかけて日本をぐるっと一周するようなクルーズをしています。それから11月から12月にかけては、少し11月からは早いんですが、クリスマスシーズンということで、クリスマスの雰囲気や船に乗って味わっていただくというようなクルーズをしております。その後年末年始は忘れられた日本の伝統的なお正月をまた船の中で、楽しんでいたかというふうなことで、日本から大体グアム、サイパンのほうに出かけて行っています。それから日本に帰ってまいりまして、日本の寒いときには東南アジアからオセアニア等々のグランドクルーズという走り方をしているのが最近の客船でございます。

日本の寄港地（スライド3）でございますけれども、船が「飛鳥Ⅰ」から「飛鳥Ⅱ」に大きくなったときに、何を一番心配したかと言いますと「飛鳥Ⅰ」、「飛鳥Ⅱ」というのを比較しますと、大体2倍の大きさがあるのが「飛鳥Ⅱ」なんですね。それでどれぐらいの港に入れるのかなということで、大変あちこちいろいろ調べましたけれど、結局日本の港、ここにありますように現在までに54のいろいろな港に寄港させていただいております。神戸

は大変ファシリティがしっかりしている港なんですけれど、実は神戸に入ってくるには、神戸の一番西側の第一関門を入れてこないといけないんですね。第一関門に入ってくると、あそこの関門の広さが 200 メートルしかありませんで、船が最近の港湾基準というのは、昔も大変厳しい港湾基準になっておりまして、航路幅は船の長さがないと駄目だと言われまして、それじゃあ神戸に入れないんじゃないかといって大騒ぎをしたんですけれど、結局海上保安部の方、それから神戸市港湾局の方、神戸の水先人の方々にご協力いただきまして、1 回シミュレーターで本当に船が入るかどうか試してみようということで試した結果、無事に入れるということになりまして、現在は中央突堤に大部分が中央突堤なんですけれど、そこに着けさせていただいています。

世界の港、ワールドクルーズに行きますと世界の港に寄りますけれど、ここ（スライド 4）に書いてあるような港に寄ってまいります。日本のほうに話を戻しまして、日本で大体どれぐらいの港に寄るかという（スライド 5）、年間 136 港、海外が 55 港、横浜が 30 港で、やはり神戸は横浜に続く回数ということで、18 回ぐらい 2007 年の実績では寄港させていただいています。今日ここに来るときに、ポートターミナルに「ロッテルダム」という客船が着いていましたけれど、昔は「飛鳥」もあそこのポートターミナル、Q と O の岩壁に着けていたんですけれど、今はどう考えてもあそこはちょっと奥まっいて、港に船が入っているという感じがしないものですから、最近はなるべく中央埠頭に着けさせていただいて、町の人から見ても、「ああ、客船が入っているな」ということが見てもらえるようなところに着けさせていただけるようになりました。

ワールドクルーズというものを、1996 年から毎年やっておりまして、「2010 年、こういうワールドクルーズに行きます」（スライド 6）ということで発表させていただいているんです。既にもう

販売が開始されておりました、お蔭さまでほぼもう満席状態になっている。2年後の話ですから実は仮予約だけしておいて、だんだん減っていくというのがいつもの現実ですけど、お蔭さまで現在はほぼ満席になっております。世界一周のクルーズってどういうところへ行くのかなってということで、ほぼ3分間で世界を回ってみようかなというふうに思います。

世界のクルーズの有名な海面というのは、カリブ海とエーゲ海と、夏のアラスカ、それから北欧のフィヨルドの中、ニュージーランド、南のニュージーランドの中というふうにあるんですけど、ワールドグルーズという、南半球をぐるっと回るのか、北半球をぐるっと回るのかということをまず考えるわけですね。世界を一周して、いろんな世界遺産を訪ねて世界の文化を訪ねたっていう達成感があるのは、やはり北半球をぐるっと回るワールドクルーズ（スライド7）だと。南半球はと言いますと、やはり少しアドベンチャークルーズに近いようなそういう環境にあります。それでわれわれは、5回ぐらい北半球のワールドクルーズを行けば、その間に一度ぐらい南半球のワールドクルーズを行こうというようなクルーズの組み方をしています。

極東を出て、スエズ運河を通して、地中海に入っていくというクルーズ（スライド8～11）ですけど、ワールドクルーズ、どうして西回りでやるのかなというふうに皆さんお考えになるかと思うんですけど、西回りで行きますと時刻改正があるんですけど、一日が延びていくんですね。一番最後に日付変更線を通るときに延びた分だけ、得した分だけ日にちが一日飛んでなくなってしまうというのが、西回りのクルーズなんです。東周りでいきますと、毎日少しずつ時間が短くなっていて、日付変更線を越えるときに日にちがダブって日本へ帰ってくるということになります。

日にちが延びていくほうが対応しやすく、短くなっていくと

本当にお客さまがお疲れになってしまうんで、ワールドクルーズ
というと、各社ともみんな西回りでやるのが普通でございます。
太平洋を最後出てくるときに、船の中で一日日にちがなくなっ
てしまうので、お誕生日を迎えられる方はがっかりされるというこ
とがあるんですけど、平均年齢 70 を超えるお客様ですから、「誕
生日が来ないほうがいいわよ」とおっしゃってくれる方がほとん
どですね。地中海もいろいろなところを走ります。15 回もワール
ドクルーズをやっていると、ほとんど新しい寄港地というのはな
いんですけど、いつも必ず 2 つ、3 つは新しい寄港地を入れな
がら、ですから常に客船が寄れる港はどこかないかなということ
で、世界中をそういう目で見ています。今回は最後にまいます、
大西洋のティネレフェ島という島に寄りますけども、そこは初め
て寄るところですね。あとはほとんど有名なところをぐるっと回
ります。

大西洋を渡って、ニューヨーク、それからクルーズのメッカで
ありますカリブ海を回りまして、パナマ運河を抜けて、米国の西
岸に入ってまいます（スライド 12,13）。その後まっすぐハワイ
に抜けて帰ってくるという方法と、アラスカに上がって、ちょっ
と季節的にはやや早いんですけど、夏の始まりのアラスカを見
て帰ってくるという方法と 2 つあるんですけど、2010 年の場合
（スライド 14,15）はアラスカに入ってきました、アラスカの
大自然を楽しんでいただこうと。それからウィットティアから日本へ
帰ってくる間は、アリューシャン列島に沿って帰ってまいりまし
て、カムチャッカのペトロパブロフスク・カムチャッキーという、
日本のすぐそばなんですけれど、本当に自然の濃い状況が残っ
ている港町でございまして、ここに寄って日本に帰ってくるという
ワールドクルーズを今考えて、発売をいたしました。

世界のクルーズ事情なんですけれど、日本はいろんなもので欧
米から約 15 年遅れているって、よく言われるんですけど、本

当にそうかなって思うことはよくあるんですけど、クルーズということから考えると、本当に 15 年ちょうど遅れているんですね。アメリカからヨーロッパにかけて大きなクルーズブームが起きましたのは、1975 年、アメリカのテレビの放送で『ラブボート』と言って、カリブ海を中心に走っている「パシフィックプリンセス」という客船の中で起きるいろんな人間模様をドラマに仕立てたテレビの連続シリーズがあったんですけど、それが大当たりをしまして、それがきっかけでクルーズブームになりました。現在世界のクルーズ人口（スライド 16）は 1,600 万人というふうに言われております。クルーズの伸び率、毎年 8 % で伸びていると。世界はすごい勢いでクルーズ人口が増えているんですね。これが外航の客船のクルーズ人口でありまして、これにヨーロッパとかで盛んなリバークルーズのクルーズ人口があと 100 万人ぐらいはいるというふうに言われていますから、世界のクルーズ人口は現在 1,600 万人を超えているという状況でございます。

先ほど各国別（スライド 17）の話が少しございましたが、アメリカが約 1,100 万人、イギリスが 120 万人、ドイツが 64 万人、イタリア、スペイン、フランスというふうに続いています。世界の客船を分けますと（スライド 18）、どういう種類の船に分けられるかと言いますと、大きさで分けると 200 人以下のお客さまの数で整理してみますと、4 種類にこういうふうに分けられます。ブティッククラスという 200 人以下の客船、それから小型船が 500 人以下のお客さま、中型船になりますと 500 人から 1,200 人。「飛鳥Ⅱ」はちょうど 850 人のお客さまですから、この中型船には入ります。大型船では 1,200 から 5,000 人までと。

それからサービス、運賃のカテゴリーで分けていきますと、ブティッククラスというのがありまして、これがやはり 1 日 800 ドル以上するような高級な船になります。ラグジュアリークラスというのが 500 から 600 ドル。プレミアクラスというのが、大体

400 から 500 ドル。カジュアルというのが、3 千人以上のお客様を乗せてレジャーランドのような格好で走る、カリブ海なんかで走っている大きな船なんですけれど、このクラスは大体 1 番安いところは 100 ドルぐらいからございます。クルーズですけれど、日本では今 3 社、日本チャータークルーズという会社も入れますと 4 社の船会社がありまして、それぞれが 1 隻ずつ動かしているという状況です。

世界、特にアメリカのマーケットで見ますと（スライド 19）、約 183 隻の船がアメリカのマーケットを走っております。この 183 隻ですけれど、大きく分けまして世界中の客船の船会社がこうなっているといってもいいと思うんですけれど、**Carnival Group** というのと、**Royal Caribbean Group**、それから **Star Group**、**Apollo Magt Group** という大きな資本提携会社に吸収されておまして、昔のブランド名を残しているものの、大きく分けるとこの 4 つに集約されてしまいます。そこに入っています「アムステルダム」ですけれど、ホーランドアメリカラインと船体には書いてあるんですけれど、実際はカーニバルが動かしているカーニバルラインが吸収した会社ということになっています。ですから世界は大きな船会社にどんどんどんどん吸収されているという傾向なんですね。（スライド 20）2000 年に世界中で大体 90 ぐらいのクルーズ会社があったんですけれど、現在では 80 ぐらいになってしまっています。それでクルーズですが、どんどんどんどん今、船ができていまして（スライド 21）、外航客船というのは世界で見ますと 350 隻ぐらいございます。そのうちの 33 隻が 10 万トン以上という大型の新造船が出来ているというのが現状です。1990 年から 2008 年の間に 190 隻ものクルーズ船がデビューいたしました。クルーズ、船の旅というものがレジャーと捉えられてから、大きくその様相が変わったということが言えるかなと思います。

それからそのうちの 2009 年から 2012 年まで（スライド 22）、

鉄板が大変高くて建造費が大変高い中、まだ 33 隻の新造船が今予定されていると。まだまだクルーズは伸びていくのではないかなということが考えられるかなと思います。その大型の新造船ですけれど、内訳を見てみますと、33 隻のうちの 28 隻が 10 万トン近い大型客船なんですね。ですからこのことを考えますと、港のファシリティというのは、よほどしっかりしたものを考えておかないと、客船はどんどん大きくなりますから、その客船が入れるような港でないといけないのかなということが言えると思います。

「フリーダム・オブ・ザ・シー」というのがもう 15 万トン級ですし、11 万トン級の船はもう 2 隻就航しています。2009 年には 22 万トン級の船ができようかという時代ですから、こういう船になりますと、運河はパナマ運河もスエズ運河も通れないんですね。そういう船が一体ワールドクルーズをして日本に来るのかなというところは少し疑問があるんですけど、少なくとも日本に来る船は全部近々には 6 万トン以上の大きさになるというふうに思っているでもいいのかなと思います。

引き換えまして、日本のクルーズ事情（スライド 23）でございますけれど、日本はさっき申しあげましたように、たった 4 隻しか船は動いていません。建造年月日と大きさはこのようになっておりまして、「飛鳥Ⅱ」、1990 年出来で、5 万 142 トンございます。

「ふじ丸」は 2 万 3 千トン、1989 年、この「ふじ丸」が誕生した年が日本のクルーズ元年というふうに言われているんですね。日本で初めてクルーズがレジャーとしてデビューしてきたという年でございます。最近内海のクルーズで神戸市がチャーターされました「ぱしふいっくびいなす」。これが日本では一番新しい船でして、1998 年に建造されています。2 万 6 千トン、「飛鳥」が少し大きいんですけど、他は大体似たような大きさと、似たような 4 隻が似たような航路を、凌ぎを削りながら走っているというの

が現状でございます。

日本のクルーズの人口（スライド 24）ですが、先ほどから 18 万人から 20 万人というふうなお話がずっと続いているんですが、われわれが「飛鳥」を就航させたときには日本のクルーズ人口というのは大体 6 万人というふうに言われていました。それが 10 年ぐらいでは 50 万人を超すはずだということで、大変な期待を持って日本のクルーズ事業を始めたわけなんですけれど、実際には、17、8 万人からあまり動かない状況になっています。どうしてそうなのかなというふうに考えますと（スライド 25）、クルーズの選択肢が少ない、まず船会社の責任も大きいと思うんですけれど、4 隻しかございません。この 4 隻が同時に動いていて、同時に満席になっても、日本の人口の中ではクルーズを楽しめる人というのは、1 日 1,800 人ぐらいしかいないということになるんですね。

それから恵まれたクルーズの海面がない。神戸は瀬戸内という大変優れたクルーズの海面をすぐそばに控えているんですけれど、それ以外日本の周りは 3 日に 1 回は低気圧が来ますし、夏は台風のシーズンがありますし、なかなかのんびりとクルーズを楽しんでいるという海面が少ないんですね。日本の地図を見ていただくと、日本の周りは何々灘、何々灘という表現になっている。灘っていうのは、サンズイに難しいと書くんですけれど、船乗りにとっても大変難しい海面ばかりなんですね。かなりやはり波が立っていますので、揺れる可能性が高いということで、クルーズに適した海面が少ない。瀬戸内なんですけれど、瀬戸内は大変多島海域で、内海ですし、大変静かでクルーズの海面としては、優れた海面なんですけれど、ただ海上交通法という大変な規制がございまして、「飛鳥Ⅱ」の場合は夜中は全然走れないんですね。だからそういう規制も少し緩和をしていかないと、なかなか難しい瀬戸内。200 メートル以下の船は夜でも走れるんですけれど、200 メ

ートル以上の船は走れないということになっていきますので、そういうものも緩和していかないと難しいのかなというふうに思っています。

あと日本には船が3隻しかありませんから、クルーズを楽しもうと思うと、一番いい方法は、例えばカリブ海に飛んで行って、カリブ海を専門に走っているクルーズ船に乗るとか、エーゲ海、地中海に飛んで行って、地中海を専門に走っている船に乗るとか、そういうふうにすれば自分の好きなときに、一番いい季節を選んでその場所のクルーズが楽しめるんですけど、日本のお客さまはなかなか飛行機で行って、客船に乗って、また飛行機で帰ってくるというのが、あまり慣れていないというか、得意ではないんですね。今から団塊の世代の方は海外旅行等々にも通じられているので、Fly & Sea でいろいろな客船に乗って、いつかは日本の客船で世界一周はというふうになってくれれば、素晴らしいかなと思っているんですけども、そういうふうなことが考えられます。

あとスローライフが苦手な日本人というのも書かせていただきましたけれど、やはりワークバランスという言葉が最近ありますけども、やはりクルーズを楽しもうとすると、かなりしっかりと休暇を取らないとクルーズライフというのを楽しめないんですね。ワールドクルーズに行きますと、100日間かかりますし、海外のFly & Sea のクルーズでも大体のクルーズが10日以上 of クルーズですから、そういうことでしっかりと休暇がとれないと、その休暇の取り方が下手なのが日本人かなという感じがいたします。

あとはちょっとグラフ（スライド 26～29）でいろいろ書いてみましたけれど、この辺は飛ばして時間があまりないのでクルーズの魅力（スライド 30）ということで、少し話をさせていただきたいと思います。いろいろなところでスローに生きるということが言われるようになりまして、スローの旅の典型がクルーズではな

いかなと思います。世界一周も自転車の速力より少し早いぐらいのスピードで世界をぐるっと回ってくるわけですから、スローライフの典型ということが言えるかなと思います。そしてそのスローの典型の中に、そこにありますように、皆さんが旅行に期待される全ての要素。安全、快適、便利、感動、健康という5つの要素が全部入っているのがクルーズでございます。

こういうときですから安全（スライド31）ということで言わせていただきますと、まず危険な場所に行かない。それから季節ですが、ワールドクルーズに行くのに、北半球のクルーズに行く時には、4月に出て行って、南半球に行くときには、1月に出て行くんですが、それは行く先々で寄港が一番いい時期を選んでいるんですね。ですから日本の近海で少し時化する可能性があるんですが、それから後はもうほとんど100日間のクルーズでも時化ることがなくて、100日間で「揺れたかな」と思われることが10日ぐらいというのが、平均的なワールドクルーズです。

それからハイセキュリティということですが、ああいう鉄の箱ですから、非常にガードはしやすいということで、しっかりとセキュリティができています。セキュリティの要因の詳しいことは申し上げられないんですが、「飛鳥Ⅱ」の場合は副船長が乗ってしまして、船長が何かあったときにも、すぐ副船長が変わって船をコマンドできるようになっています。またその副船長の主な仕事はというと、船のセキュリティと乗組員の規律の管理。それから安全確保なんですね。そういうことで、その副船長を主任にいたしまして、その下にセキュリティオフィサーといいまして、大体イギリスのNavy上がりなんですけれど、テロ対策だとか爆弾サーチの専門の訓練を受けたオフィサーが1人おります。それからその下にFire Patrolといって船の一番恐ろしいのは火事なんですけれど、船の中をぐるぐる巡警しながら、火事とセキュリティの対応をしている乗組員がおります。

簡単に言ってしまうと、ちょうど警備員付きのセキュリティシステムがしっかりしたマンションで、皆さん旅行していただいているということかなと思います。それに加えて、ドクターが乗っておりまして、ロングクルーズですと、ドクター2人とナース3人が乗っています。ちょっとした離れ小島の診療所よりはしっかりと診療設備が整っていますので、そういう面でも大変安全に旅行していただけるのかなと思います。快適(スライド 32)という面では、これはマンションが走っているリゾートホテルが動いているのと一緒にですから、赤道直下であっても、南極であっても船の中はいつも 24 度ぐらいですし、おいしい食べ物は用意できていますし、無限の自由、全てもう何もしないでもいいという自由の時間がありますので、大変快適にお過ごしいただけます。「クルーズは時の揺り籠」という表現があるんですけど、これは本当にうまい表現だなというふうに思いまして、大変私の好きな言葉の1つでございます。

便利(スライド 33)という面では、一番便利だなと感じますのは、パッキングから解放されるということです。荷物はもう船の中に積んでおけば、あとは寄港地では何も持たないで上陸できます。また出入港の手続きもすべて船のパーサーがやりますので、面倒な手続きをしていただくことはございません。ストレスフリーの旅ができるということかなと思います。お土産も船の客室に特別に大きなものをお預かりするということはしていないのですが、お部屋に入るものであればどうぞ、というふうなスタイルでやっています。日本のお客様、最初はワールドクルーズなんかでもお土産はなるべく買わないようにしようと思っておられるらしいんですが、誰かお一人が買い始めると皆さんやはりすごく買ってしまわれるんですね。寄港地の商売をしているほうも大変上手でございます。ベトナムのホーチミンなんかに行きますと、岩壁で陶器で作った象が売っているんですね。売る方は「象は2つ

ないと不幸になりますから」って、必ず2つ買って下さいという
んですね。岩壁に最初は 20 個ぐらいしか並べてないんです。岩
壁の裏にはでっかい倉庫があって、100 匹も 200 匹も置いてある
んですけど、その 20 匹が売れ始めると、品切れになっちゃう
んじゃないかと思って、みんな先を争って買うと。船中象だらけ
になっていたというそういうことも経験しました。そういうこと
も楽しみの1つでございます。

あとは旅をするからには、大きな感動がないと旅がよかったと
は思わないと思うんですが、感動（スライド 34）という面では船
旅には大変多くの感動がございまして、自然現象との出会い、太
陽が毎日上りますし、毎日日没がございます。同じ日没、同じ日
出というのは決してなくて、見る度に違うものをご覧いただけま
す。この日出、日没を見ているだけでも素晴らしいというふうに
言っていたることもございます。また海から見た陸の風景な
んですけど、これも普段陸から海を見るということはよくある
んですが、海から陸を見るというチャンスはなかなかないもので
すから、大変皆さん感動されます。海洋生物との出会いもたくさ
んございまして、これは期待していないときにクジラが出てきたり、
イルカが出てきたり、海ガメがいたりというそういう出会い
がございます。

また人との出会いというのも大変大きな要素でございまして、
皆さんストレスフリーの中で、船の中に暮らしていらっしやいま
す。24 時間一緒にいますので、「おはようございます」「こんにち
は」「こんばんは」いろんな挨拶からコミュニケーションが始まり
まして、皆さん大変よいお友達になられます。古い表現なんでし
ょうけれど、昔は戦う友の戦友、今は船の友の船友ということで、
大変気心の知れたよい友達ができるというふうに皆さんおっしゃ
います。

また新しい自分の発見ということを1つ書かせていただきまし

たけれど、これは先ほど須田先生のほうから、創造的ないろんな観光を作らなくてははいけない。学習型、参加型とおっしゃいましたけれど、船の中の1つの良さというのは、いろんなクラスルームが船の中にあるんですね。例えば今一番人気がありますのは、ダンス教室なんですけれど、100日ダンス教室に通うと、皆さん相当な踊り手になられます。またヨガの教室があったり、それからマジックの教室があったり、お孫さんにちょっとマジックを覚えて帰ってあげようと思って、マジック教室に通ったら大変はまってしまって、船から降りているときには、養老院を回って、今はマジックのボランティアをしているなんて方もいらっしゃるぐらいですから、船の中では陸上では四十の手習いと言いますけれど、船の中は平均年齢先ほど申しましたように、70歳近くなりますので、六十の手習いですねというふうに言っているんですけれど、新しい自分を発見される方がたくさんいらっしゃいます。

あとは本当に一生のうち、こういう風景を初めて見た、忘れられない瞬間だ、英語で言えば **Unforgettable moment** だとか、**Once in a lifetime experience** という表現をされる方もいらっしゃる感動がたくさんあります。あともう1つ、これは大変貴重な大きなことだと思うんですが、全てが船の場合は本物なんです。テーマパークで一番人気があります、大成功を収めているディズニーランドのディズニーリゾートの方とお話をしたことがあるんですけれど、「客船とディズニーリゾートはよく似ている」というふうにおっしゃいまして、まず第一はしっかりとした設備があること。それから大変教育が行き届いたスタッフがいること。それからテーマのあるエンターテイメントがあること。あと食べるものが東京ディズニーリゾートも食べ物一切持ち込み禁止ですから、自分のところで作ったものを食べていただく。船ももう船に乗ってしまうと、船から提供される食べ物しかありませんのでそういう状況。それからお客様にリピーターが大変多いという、それも

大変よく似ていますね。あと客船が優れているのは、「全てが本物というのはいすごいすね」というふうにおっしゃっていただきました。ディズニーランドはいろいろもちろん作っているんですけど、全ては人が作ったもの。それに比べて客船は自然の現象だとか、風景だとか、そういうものは全部本物ですから、あそこが客船はすごいよね、というふうにおっしゃっていただいた。全てが本物というのはいすごいすねというふうに思います。

あと健康（スライド 35）が付いてくるといす話を少しさせていただきたいんですけれど、船に黙って乗って食べる機会が7回以上ありますから、全部食べているとウエストの周りは確実に伸びていくんですけれど、お時間が全て自分のものですから本当にしっかり健康管理をしようと思ったら出来るんですすね。運動のフィットネスの設備もありますし、プールもありますし、気功の教室だとか、いろいろなスポーツの教室もございます。そういうものにずっと通っていると、大変皆さんお元氣になられます。最初乗ってきたときは、船のデッキを杖をついて歩いていらっしやった方が、降りるときには杖を忘れていかれたりとか、気功の教室にずっと通っていて、正座できなかった方が正座できるようになった、本当によかったっておっしゃっていただいたり、そういうふうには健康管理が大変やりやすいのも船旅の1つの良さかなと思ひます。そのほかに空気が大変いいだとか、海のヒーリング効果があるだとかいろいろなことが言われるんですけれど、空気は絶対にすごいすねですから、花粉症の方はそのシーズンはずっと船に乗っていらっしやったら花粉症からは絶対に解放されると思ひうんですけれど、大変健康も付いてくると。その全ての要素を含んでいるのが、クルーズだといすことが言えると思ひます。

（スライド 36）あと船長をしていますと、「揺れませんか？」
「退屈しませんか？」あと船にはドレスコードといすものがあるんですけれど、これは面倒ですすねと。それから「船はもう上級のキ

「キャビンに入らないと、差別待遇があって、大変惨めなんじゃないですか？」「クルーズは高いですね」と必ずこの5つの質問があります。揺れませんかという話では、最近の船は船の中心にスタビライザーという羽が付いていまして、その羽がローリングの85%を吸収してくれますので、全く揺れないとは言いませんけれど、本当に揺れにくくなっています。船に乗っていただくと、お部屋に入っていただくと、一輪差しに花が活けてあるんですね。その一輪差しがひっくり返るようなことはありませんし、ダイニングでワイングラスが立たないということもありますので、大変揺れにくくなっているということが言えるかなと思います。

「退屈しませんか」ということでは、本当に船の中は最初のうちは、船が用意したいろいろなエンターテイメント全て経験しないと損をしたというふうな感じにお客さんがなられるんで、ワールドクルーズでも最初のうちは船の中はてんやわんやの大騒ぎという格好で、食事と船が企画しているいろんなテーマを追っかけますと、部屋を出て着替えに部屋に帰ってくるだけという状況になります。それが一か月ぐらい経つとだんだん自分のペースがつかめて、お好きなものを深く静かにやっていくというふうな形になるんですけれど、いろんなエンターテイメントとの関係で、作家の方々が講演の講師で乗られるんですけれど、船に乗ったら原稿をたくさん書こうと思って、はりきって乗っていらっしゃるんですけれど、ほとんどの方が「書けなかった」と言って、「入港したら出版社が来るんだけれど、もう上陸したって言ってくれ」とか言って逃げて回っていられるという状況になります。

退屈することは決してございません。ドレスコード、これは面倒と言えば面倒なんですけれど、フォーマル、インフォーマル、カジュアルとありまして、それもクルーズの良さを味わってもらう手法だということかなと思います。フォーマルは特に女性の方はおしゃれを楽しんでいただくということで、そういうふうに考

えていただければいいかなと思います。

「上級の部屋に入らないと惨めですね」というのは、最近の船はそういうことはありませんで、値段の差はお部屋の広さの差だけです。パブリックでのサービスは全部平等ですので、せっかくだから広い部屋でのんびりしたいという方が広いお部屋に入れますし、何回も船に乗りたいという方はちっちゃなお部屋でもいいから何回も乗りたいという方もいらっしゃるし、お客さまのお考え方によっていろいろ選んでおられるということかと思います。

クルーズは高いですね。これは決して安くはないなというふうに思っていますけれど、ワールドクルーズ100日で一番安いお部屋ですと、350万円ぐらいで回って来れるわけですから、1日35,000円、それで交通費からエンターテイメントから、食事から全部入っていれば決して高くないのではないかなというふうに思ったりもします。高いお部屋は一人ワールドクルーズに行って帰ってくると、1,700万円ぐらいかかってしまいますので、これは減茶苦茶高いのは高いなと思うんですけど、一番安いお部屋で考えた場合は、決して高くないのではないかなと思います。

クルーズを楽しんでいただくための気配り（スライド37、38）ということでもちょっと書きましたけれど、この辺は飛ばしてしましまして、お時間ももう来ておりますので、神戸が、じゃあクルーズ船を呼びたいというふうにお考えになったときに、先ほどちょっと最初にお話ししましたように日本の客船だけで考えると4隻しかございません。だからやっぱり世界の客船を呼ぼうというふうにグローバルに考えないと、日本の客船4隻じゃいくら誘致しようとしても大したことはないかなと思います。ですからぜひ世界のマーケットにポートセールスで出かけて行って欲しいんですね。そのときに話していただきたいのは、日本で一番の売り物はまず安全です。こんなに安全に旅が楽しめる国はないんじゃないかな

いかなと思うぐらい安全なんですね。それから食べる物はおいしいですし、伝統的な文化もありますし、セールスポイントはものすごくあると思うんですけど、そういうものを持ってシートレードだとか、マイアミで毎年やっております大きな世界中の客船会社が集まっていますから、そういうところに行ってぜひポートセールスをしていただきたい。

それから客船をやっぱり呼ぶからには、玄関口に着けてあげたいですね。物流港と人流港が混在してしまっていて、最近の日本の港では物流だけで港が大きくなったようなところがございます。そういうところへも寄港するんですけど、これは入って行って裏口に着いたなという感じがするんですね。神戸の場合は港のファシリティはすごくしっかりしているんで、例えば中央埠頭なんかは本当に玄関口に着けていただいたなというふうな気がするんですけど、今のポートターミナルはどうか。ちょっと高速道路の下ですし、ポトライナーがあって、交通はすごく便利なんですけれど、泊まっているときには、周りに何も見えないという環境なので、お客さまにとってはあまり楽しくないのではないかなと思います。

それから外国の船を呼ぶということで考えますと、外航客船で考えますとやはり大事なのは **CIQ**（シーアイキュー：国境を越える交通及び物流において必要とされる手続き）なんですね。今の船は千人ぐらいのお客さまは乗って入港してまいります。そのときにイミグレーションだとか、通関の手続きにものすごく時間をかけちゃうと、客船というのは、朝入って、大体夕方には出てしまうというのが通常のオペレーションですから、お客さまが上陸されるために何時間もかかってしまうのは、世界の玄関として港が発達するには少し問題があるかなと思います。問題の解決の仕方は前の港に関検の方に飛んでいただいて、航海中に **CIQ** を済ませてしまうという方法もあるかなと思います。

また、最近のお客様は、港に入ってきて背後地の観光地に行くというよりは、港の周りでぶらぶらして地域の方々と触れ合うというのをすごく楽しみにされているんですね。そういうところでもいい人間関係、コミュニケーションができた港というのは、すごく印象に残っていて、またぜひ来たいというふうにおっしゃいます。そういうことですので、港に人が集まるような雰囲気のある港にしていけないといけないと考えます。神戸の方はみんな神戸は港町だと思っていられるから、例えば港の周りに緑地帯を作ったり、公園を作ったりすれば、夕方になるとぶらっと公園に散歩に来たり、散歩に来たところに客船が泊まっているのが見えて、客船から降りていって散歩されている方とコミュニケーションがとれたりということになると、港の良さというのがすごく出てくると思いますので、そういうこともぜひ考えていただきたいです。

それから、「飛鳥Ⅱ」なんかでもいろんな地域の港に行くんですけど、港に入港していても、どなたとお話すれば入港した後のいろんなセレモニーだとか、岸壁上でお土産の店が模擬店を出すとか、そういういろんな歓迎する手法というのがあるんですけど、どなたとお話したらそういうことがやっていただけるのか分からない港というのが結構あるんですね。NPOの歓迎する人たちがいたり、商工会議所が中心になってそういうことをやってくれたり、港湾局が中心になってそういうことをやってくれたり、場所によっていろんなやり方はあります。せっかく入港していったときに、その入港した港の顔が全然見えないというのがものすごくさびしい結果になってしまうので、神戸の方々にはそういう受皿組織をしっかりと作って、「地域の方とお客さまとこういう触れ合いができます」、そういうことをぜひ提案していただければと思います。

少しお時間を過ぎてしまいましたけれど、ちょっと急いで話してしまいましたので、申し訳なかったんですけど、最後にきれ

いな写真をいっぱい持ってきたんで、写真だけでも見ていただこうかなと思います。これ(スライド 39)は大阪港に入港していく、天保山へ入港していく「飛鳥Ⅱ」ですね。これ(スライド 40)は瀬戸大橋の下を通過している「飛鳥Ⅱ」です。これ(スライド 41)は開聞岳といいまして、薩摩半島の先端に大変姿の良い山がございます。ワールドクルーズに行くときに、「日本の最後の風景ですよ、お客様しばらく日本とはお別れですね」ということで、この景色を見て下さいということで、接近して見ていただいています。岸線近くまで水深が確保できますので接近できるのです。あるワールドクルーズで、どこが一番印象的でしたって聞いたら、「いや、開聞岳が一番印象的でした」って言われて、これは喜んでいいのか、悲しむべきなのかちょっと迷いましたけれど、でもその方は鹿児島に住んでいらっしゃる方で、この山には何回も登ったことがあるけれど、海からこんなにきれいに見えるのは、初めて知ったということで、大変感動したというふうにおっしゃっていただいたんです。そういう風景です。

これ(スライド 42)は桜島で、鹿児島湾の中を航行しているところです。次(スライド 43)は夕焼けの東京湾に入港しているところです。これ(スライド 44)は横浜です。横浜はベイブリッジとみなとみらいの建物ができてから、大変きれいな景観になりまして、世界にも誇れる港になったかなと言う感じがいたします。これ(スライド 45)はシドニーの客船ターミナルに着けるところで、そこはオペラハウスの向かいにあるんですね。だから大変美しい場所に客船ターミナルがありまして、停泊中もお客さまはシドニー湾を楽しめるということです。これ(スライド 46)はベニスを入港していくところの「飛鳥Ⅱ」です。やはりベニスは水の都、海から訪れて、そのベニスの良さが初めて分かれると言われますけれど、本当にそれを実感する町ですね。

ストックホルム(スライド 47)で、瀬戸内と同じように大変多

島海の中をくぐり抜けて港に入っていくというところです。これ（スライド 48）はニューヨークの自由の女神の下を通過している「飛鳥Ⅱ」です。大西洋を渡って、ハドソン河を上って、ニューヨークに入ってきますと、やはりいろんな映画でヨーロッパの移民が「ああ、アメリカに来た」ということを、この自由の女神を見て感動するシーンがよくありますけれど、同じような思いがいたします。これ（スライド 49）はカナダのケベックですね。これ（スライド 50）はセーヌ川をのぼっている「飛鳥」です。パリの外港に行くときに、セーヌ川を 3 時間ぐらい上るんですけど、セーヌ川を航行するというのも大変素晴らしく、両方の景色が迫っていきますね。これ（スライド 51）はニュージーランドのミルフォードサウンドに入っていくところ。ちょうどダウトフルサウンドというサウンドの入口なんですけれど、船が右にいったらいいのか、左のサウンドの水路に入ったのか、大変迷うということで、ダウトフルサウンドという名前がついているところです。オークランド（スライド 52）ですね。これ（スライド 53）がエーゲ海の中のサントリーニ、火山の火口が海の中に沈んでしまって、その火口の中にこの船が入っているところですね。アトランティス伝説の島と呼ばれています。

はい、以上でございました。ありがとうございました。



ASUKA CRUISE



世界と日本のクルーズ事情とクルーズの魅力

飛鳥Ⅱ 年間スケジュール概略



スライド2

飛鳥Ⅱ 国内寄港地一覧

函館	福井	小松島
網走	神戸島	高知
小樽	横浜	松山
室蘭	横浜	博多
十勝	清水	別府
留萌	伊東	大分
網走	名古屋	唐津
利尻	四日市	長崎
青森	鳥羽	佐世保
大船渡	新宮	福江
宮古	和歌山	油津
秋田	大原	徳島
船川	神戸	鹿児島
徳田	水島	種子島
仙崎	広島	名瀬
新潟	岩国	那覇
伏木	下関	座間味
金沢	境港	石垣



スライド3

飛鳥Ⅱ 海外寄港地(2006年度実績)

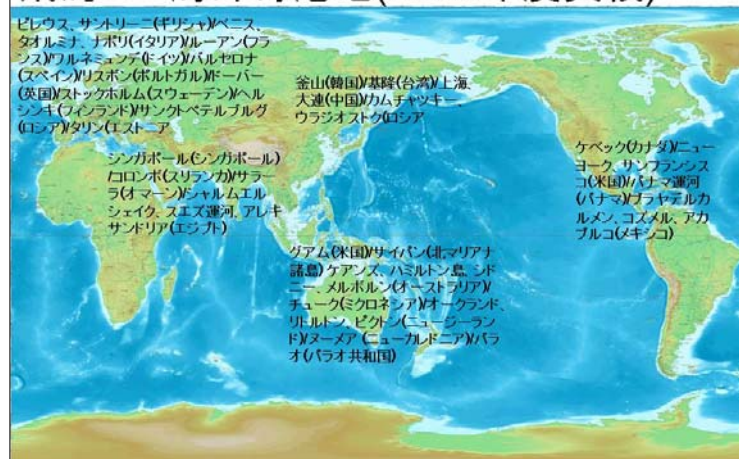
ピレウス、サンクトペテロブルグ(ロシア)、
タオルミナ、ナポリ(イタリア)、ルーアン(フランス)、
ワルネモンデ(イギリス)、バルセロナ(スペイン)、
リスボン(ポルトガル)、ローバー(英国)、
ストックホルム(スウェーデン)、ヘルシンキ(フィンランド)、
サンクトペテルブルグ(ロシア)、タリン(エストニア)

釜山(韓国)、基隆(台湾)、上海、
大連(中国)、カムチャツキー、
ウラジオストク(ロシア)

シンガポール(シンガポール)、
コロンボ(スリランカ)、サラ
ラ(オマーン)、シャルムエル
シェイク、スエズ運河、アレキ
サンドリア(エジプト)

ケベック(カナダ)、ニュー
ヨーク、サンフランシスコ(米国)、
マニラ(フィリピン)、
パナマ、コスタマ、アカ
プルコ(メキシコ)

グアム(米国)、サイパン(北マリアナ
諸島)、ケアンズ、ハミルトン島、シド
ニー、メルボルン(オーストラリア)、
オークランド(ニュージーランド)、
リトルトン、ピクton(ニュージーランド)、
ヌメア(ニューカレドニア)、パラ
オ(パラオ共和国)



スライド4

飛鳥Ⅱ 2007年度寄港回数

- 国内 136港(延べ寄港回数)
(横浜30回、神戸18回青森・博多5回
名古屋・金沢・高知・長崎4回など)
- 海外 55港(延べ寄港回数)
- 合計(年間総寄港回数)
191港(延べ寄港回数)

スライド5

飛鳥Ⅱ



2010年 世界一周クルーズ

2010年4月4日(日) ▶ 7月16日(金)



スライド6

Cruise Course



人を。歴史を。大自然を。地球のすべてを感じる旅へ

人類が歩んだ悠久の歴史と、大自然の神秘が宿る地を巡ります。
新たな感動体験が待つ、至高の103日間をご堪能ください。



スライド7

Asia / Middle East (アジア・中東)



ユーラシアの交易を支えた大動脈。2000年の時を紡ぐ海道を往く

旅のはじまりは、躍動するアジアの都市、香港、シンガポールから。
インド洋の楽園・モルジブのビーチでくつろいだ後に、アラブの良き伝統が残るオマーンやエジプトへ。



スライド8

Asia / Middle East 《アジア・中東》



- 4/9 ● 香港 (中国)
- 4/13 ● シンガポール (シンガポール)
- 4/18 ● マーレ (モルジブ)
- 4/22 ● サララ (オマーン)
- 4/28 ● スエズ運河通航 (エジプト)
- 4/29-30 ● アレキサンドリア (エジプト)



スライド9

Aegean Sea / Mediterranean Sea 《エーゲ海・地中海》



欧州の奥深き時の流れを感じる、浪漫あふれる2つの海へ

スエズ運河を抜けた険しい山は、エジプトからギリシャ、ローマと続く欧州文明の足跡を辿ります。
途中に立ち寄る幾多の古都では、偉大な芸術作品との出会いが待っています。



スライド10

Aegean Sea / Mediterranean Sea 《エーゲ海・地中海》



- 5/2 ● ロードス島 (ギリシャ)
- 5/3 ● サントリーニ島 (ギリシャ)
- 5/4 ● ビレウス (ギリシャ)
- 5/6-7 ● イスタンブール (トルコ)
- 5/10 ● バレツタ (マルタ)
- 5/12-13 ● ナポリ (イタリア)
- 5/15-16 ● マルセイユ (フランス)
- 5/17 ● バルセロナ (スペイン)
- 5/20 ● リスボン (ポルトガル)
- 5/22 ● マデイラ島 (ポルトガル)
- 5/24 ● テネリフェ島 (スペイン)



スライド11

North America / Caribbean Sea 《北米・カリブ海》



降りそそぐ太陽と、陽気なカリブの街。地上の楽園で極上の癒し体験を

大西洋を横断し、まずは新大陸のかつての首都ニューヨークへ。
カリブ海に浮かぶ島々のリゾートで思いっきり羽を伸ばした後に、パナマ運河を抜け、太平洋へと進みます。



スライド12

North America / Caribbean Sea 《北米・カリブ海》



- 5/31 ● パミューダ (パミューダ)
- 6/3・4 ● ニューヨーク (USA)
- 6/8 ● サンファン (USA)
- 6/10 ● セントジョンズ (アンティグア・バーブーダ)
- 6/12 ● キュラソー島 (オランダ領アンティル諸島)
- 6/14 ● パナマ運河通航 (パナマ)
- 6/18 ● アカプルコ (メキシコ)
- 6/23・24 ● サンフランシスコ (USA)



スライド13

Alaska / Russia 《アラスカ・ロシア》



壮大に広がるアラスカの氷河。地球のダイナミズムを眼前に

旅のフィナーレは太平洋を北上し、ベストシーズンのアラスカとカムチャッカへ。
眼前に迫る雄大な氷河や火山群など地球の息づかいを感じ、日本へと舵をとります。



スライド14

Alaska / Russia 《アラスカ・ロシア》



- 6/27 ● バンクーバー (カナダ)
- 7/1 ● ジュノー (USA)
- 7/4 ● ウイットティア (USA)
- 7/11 ● ペトロパブロフスク
カムチャツキー (ロシア)



スライド15

世界クルーズの現状

- 1970年： 約50万人のクルーズ人口
- 2007年： 約1606万人のクルーズ人口
- クルーズ人口の伸び率： 約8% / 年
- +100万人のリバー・クルーズ

※ Complete Guide to Cruising & Cruise Ships 2007
by Douglas Ward, UN Year Book 1995

スライド16

世界クルーズの現状

世界のクルーズ人口

アメリカ	約1135万人
イギリス	約120万人
ドイツ	約64万人
イタリア	約52万人
スペイン	約38万人
フランス	約25万人

※Complete Guide to Cruising & Cruise Ships
2007 by Douglas Ward, UN Year Book 1995

スライド17

世界のクルーズ現状

- サイズによる区別
- サービス(値段)区別
- プティック クラス
客数 0-200名
- プティック クラス
客数 200-500名
- 小型 200-500名
- 中型 500-1200名
- 大型1200-5000名
- ラグジュアリー
- プレミアム
- カジュアル

スライド18

世界のクルーズの現状

米国のクルーズ客船 183 隻

・ Carnival Group	91隻
・ Royal Caribbean Group	40隻
・ Star Group	21隻
・ Apollo Magt Group	16隻
・ 独立系	15隻

スライド19

世界のクルーズ動向

- 2000年= 90 クルーズ会社
- 1990年 ~2007年
55以上のクルーズ会社が合併か
倒産してしまった。
- 2007年= 80のクルーズ会社

スライド20

世界のクルーズ動向

- 80 外航クルーズ会社
- 350 隻 外航客船
- 33 隻 10万総トン以上
- 1990年1月～2008年12月 190隻 新造船
- 2009年1月～2012年 33隻新造予定

スライド21

世界のクルーズ動向

- 2009年～2012年の新造客船
- プティック・クラス = 0 隻
- 小型 = 1 隻
- 中型 = 4 隻
- 大型 = 28 隻

大型化の傾向 10万トン以上のメガシップ
 「フリーダム・オブ・ザ・シー」 15万8千トン、
 11万トン級の「クラウン・プリンセス」
 「コスタ・コンコルディア」
 2009年には22万トン「オアシス・オブ・ザ・シー」
 が就航する。

スライド22

日本クルーズの現状

日本のクルーズ人口 17～20万人

外航クルーズ客船 4隻

飛鳥Ⅱ	50, 142総トン	1990年	建造
ふじ丸	23, 235総トン	1989年	
にっぽん丸	21, 903総トン	1990年	
ぱしふいっくびーなす	26, 6518総トン	1998年	

スライド23

日本クルーズの可能性

- 人口 約1億2700万人
- =約17%=2200万人が65歳以上
- 日本人の金融資産=約1400兆円
 この70%を60歳以上が持つ。
 お元気でお金持ちのお年寄りが多い
 大変クルーズ業界にとっては魅力的な
 市場と考えられている????

スライド24

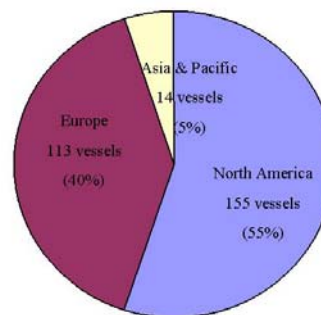
日本クルーズの可能性

日本でクルーズ人口が増えにくい理由

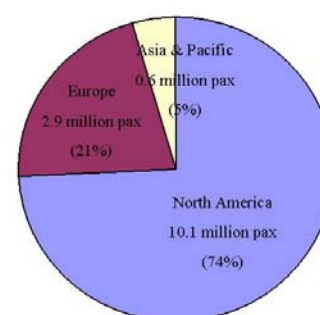
- 1)クルーズの選択肢がない
- 2)恵まれたクルーズ海面が近海にない
- 3)FLY & SEA が発達した環境がない
- 4)スローライフが苦手な日本人

スライド25

Vessel Nationality

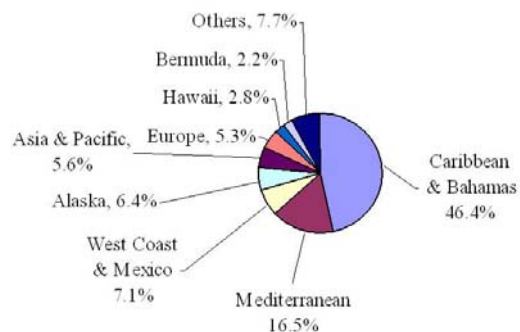


Pax Nationality



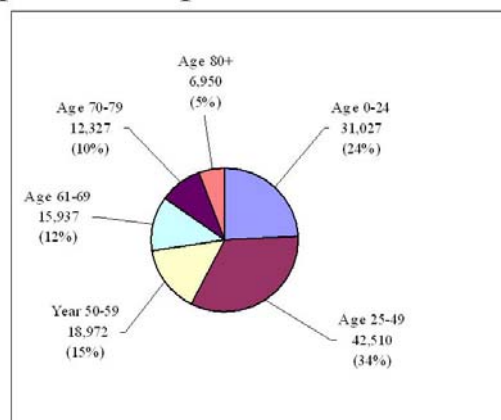
スライド26

Cruising Area (Pax Volume)



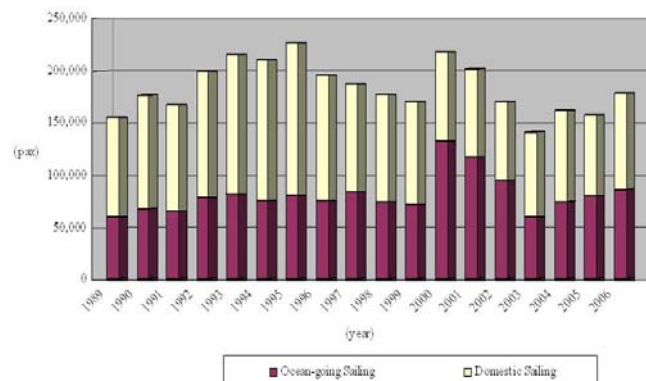
スライド27

Japanese Population



スライド28

Cruise Passengers in Japan



スライド29

Captain's 5 Points Talk

1. クルーズの魅力

クルーズは時の揺り籠

非日常的な時の流れを楽しんで下さい。

スローライフの究極が船旅です。

- 1) 安全
- 2) 快適
- 3) 便利
- 4) 感動
- 5) 健康

スライド30

安全

- 危険な場所には行かない。
- 良い天候の時期を選ぶ。ベスト・シーズンの...
- ハイ・セキュリティ(ソフト・ハード)。
- 診療設備の完備。
- 船は最も安全な交通機関。
- 警備員付き、セキュリティシステム付き、病院付き、ゾート・ホテルで旅を楽しむ。

スライド31

快適

- 地球の何処にいても、船内は快適。
- 美味しい食事を楽しみエンターテインメント。
- 無限の自由。
- 非日常の時間の流れ。
- クルーズは時の揺り籠。

スライド32

便利

- パッキングからの開放。
- 出入港手続きも簡単。
- おみやげもかなり自由。
- ストレス・フリーの旅。

スライド33

感動

- 自然現象との出会い。
- 海からの風景。
- 海洋生物との出会い。
- 人との出会い。
- 新しい自分の発見。
- Unforgettable moment !
- Once in a lifetime experience !
- 全てが本物の感動

スライド34

健康

- 規則的な生活が可能。
- 充実したフィットネス設備。
- スポーツ系の教室。
- オゾンがいっぱい、ストレス・フリー。
- 母なる海に抱かれる。
- 海のヒーリング効果。

スライド35

Captain's 5 Points Talk

2. 船長が良く受ける質問

- 1) 揺れませんか？
- 2) 退屈しませんか？
- 3) ドレスコードが面倒ですね？
- 4) 上級の部屋に入らないと惨めでは？
- 5) クルーズは高嶺の花ですね？

スライド36

Captain's 5 Points Talk

3. クルーズを楽しむために

1) 他人への気配り

船旅はお客様が主役、地球が舞台、
船が舞台装置、クルーが脇役のドラマです。
それでも、限られた空間での団体旅行、
他のお客様にとっては貴方も脇役です。
名脇役になって下さい。

スライド37

Captain's 5 Points Talk

3. クルーズを楽しむために

2) 70点主義

3) 出来るだけの下調べ

4) 軽快な足元、服装 お気に入りのスニーカーは忘れずに

5) 是非 双眼鏡を 視界が広がります。 (倍率は7～8倍がベスト)

スライド38

Real destination is ASUKA II itself



 ASUKA CRUISE



大阪港



ASUKA CRUISE

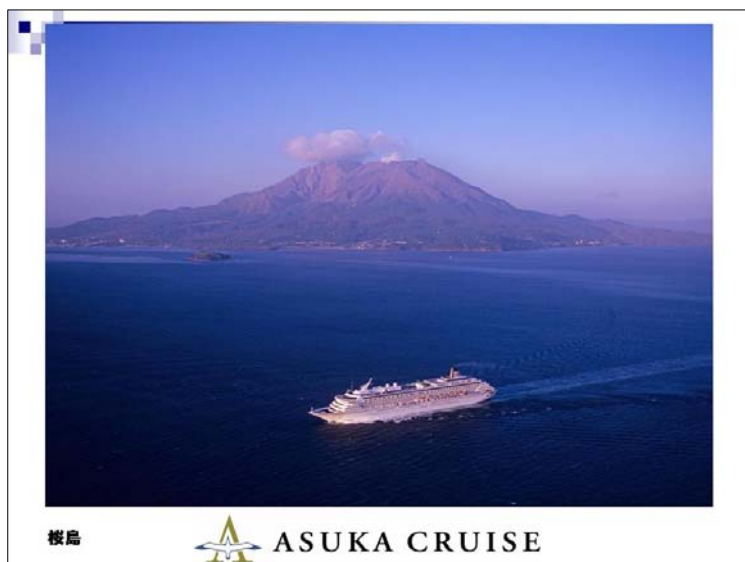
スライド39



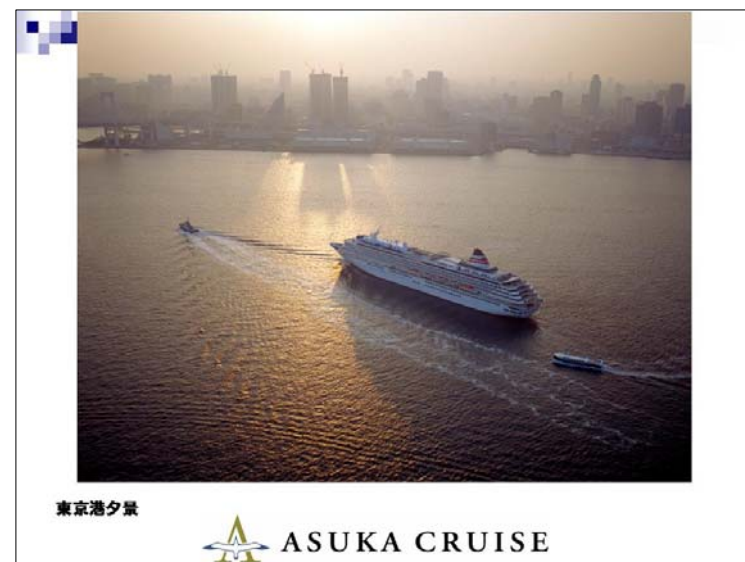
スライド40



スライド41



スライド42



スライド43



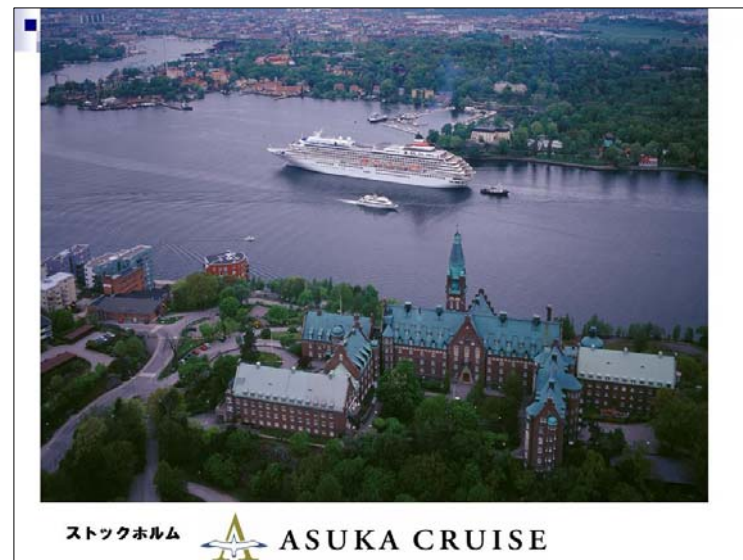
スライド44



スライド45



スライド46



スライド47



ニューヨーク



ASUKA CRUISE

スライド48



ケベック



ASUKA CRUISE

スライド49



セーヌ川



ASUKA CRUISE

スライド50



ミルフォード&ダウトフルサウンド

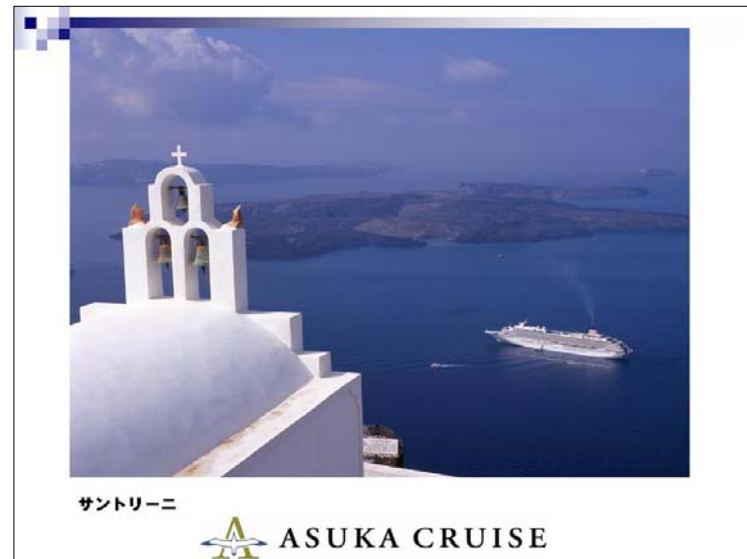


ASUKA CRUISE

スライド51



スライド52



スライド53